

# 楽々亭通信

発行：NPO法人没イチの会・京都



## 楽々亭は第7回目を

### 開催いたしました

『年を重ねるといこうと』

本願寺派布教使  
安堂芳雅

◆今年は「コロナに負けず、ご家族が健康でありますように。」と一言添えられた年賀状をたくさんいただきました。

「無病息災」「健康長寿」は私達の根底にある願いのようです。

しかし、どれほど願ひ、祈ったとしても、仏教でいう「生老病死」生まれ、老い、病み、いのち終えることは、誰にも代わってもらえず、避けられません。

ならばどうするか？  
仏教では、「いったん自分の身にひき受けて、そ



こに新たな意味を見いだしましょう。」と教えま

「老い」について言う  
と、最近アンチエイジングとあって抗ってしますが、「老い」という身体の変化はよい事でも悪い事でもありません。  
ですが私達は「老い」を悪いこととして、嫌い、避けようとしています。

新聞に「歳がいつて涙もろくなることを、涙腺がゆるむといわずに、感受性が豊かになったと受け止めたい。」と投稿があったそうです。

このお方は、年をとって「涙もろく」変わっていくのは、涙腺がゆるむという肉体の衰えではなく、様々な経験を積み重

ねる中に、相手の気持ちに寄り添い、そのことよつて感性が深まる、素敵なことだと受け止めておられます。

例えば入院した時に、「頑張つて早く元気になつて。」と云われるよりも、「〇〇に困つてるんじゃない。」と云われるよりも、「ああそういう治療はしんどいね」といつてもらうと嬉しい。

それはその人の言葉の中に「共感」を感じ取れるからではないでしょうか。同じでなくても、似たような経験をすれば「あの時はこんな思いだったなあ」と自分の思いを投影することが出来ます。

では、そのように共感できる経験を得るには、一概には言えませんが、年を重ねることです。

年を重ねたからこそ、感性が深まる。「老いること」は広く深い世界が開けてくるという意味があります。

最後に、四苦の最後、「死」について少し書きま

私達が出来る限り避けたい、先延ばしにしたいのが、「死」の事実です。

この避けようのないこの身の事実を阿弥陀さまとおつしやっています。

あなたには死んで終わらうけれど、そうではない。生まれてゆくんだよ、と、いのち終えることの意味を、「終わり」死から

「はじまり」生まれるとひ

今あるものを、そのまま一度身に引き受けて、そこに新たな意味を見出していく。これを仏教では「智慧」といいます。

◆仏さまのおこころを、お姿を通して紹介して

三回目は「長指相」(ち

ようしそう)、指の長さのお話です。

聞くところによると、薬指の長さはお母さんのお腹の中で浴びたホルモンの量で決まり、おおむね男性は薬指が人差し指より長く、女性は、人差し指のほうが長いそうです。

ならば自分とは見ると、どの指も割合長いのですが、人差し指より薬指のほうが一センチ近く長い・・・。

皆さんも比べてみて下さい。

さて、仏さまは、指を様々なカタチに組んで、そのお心を伝えておられます。実際に私達が真似てみるには、ちよつと難しいカタチもありますが、仏さまはどんなカタチであっても自在に組むことが出来ます。なぜならとても長い指をお持ちだからです。仏さまがまだご修行されていた時に、すべての

いのちを師と仰がれ、心から敬つて、合掌礼拝されたことよつて得られた特徴だとお経に説かれています。

すべてのいのちへの敬いが指にまであらわれる仏さま。

対して、今そこにあるいのちを、分け比べ、選り好みしている私。もう一度自分の手を見ると、何だかとても短い指に思えて、そつと隠したくなりました。

### 楽々亭第7回に参加して

新しい年を迎え第7回の楽々亭が開催されました。

其の日はとても寒くて、コロナ感染も毎日増える一方で不安のある中で沢山の方が参加された事は、改めて楽々亭はすごいなあと実感しました。

籠谷さんのお話は現在色々と考えても答えは出ないのでは？ですが一時的にも映画、小説の世界で有るような感覚で話をされたり、考えてみたりした事は現在の生活にない面白さでした。

た。

私達は人間として生を受け、50年〜100年と生かされている。その間には平穏な日々ばかりではなく、挫折あり涙が出なくなるほど悲しんだり、死にたくなる程悩んだりする事があると思えます。其の時こそ仏教の仏様の話を聞き心の悩みが、少しづつ軽くなって行く様に感じていきます。

今年はどこにでも出かけて行くようになって欲しいと願うばかりです。

山口和子

25、26歳の頃より親戚の葬式は何故か全部取り仕切ってきました。

悲しみの声が耳に染み込んで居ります。

この度仏教に関する話を種々聞き、間もなく導かれる小生にとつて、心安らかに成りました。

思い返しますと、先輩の多くがこの世を去って行き、段々と小生に死が近づいて来ています。

しかし、種々の話を聞いてい

ますと何故か安心感が漂って参ります。

晩年になって良き説法を聞き、心が落ち着いた氣に成りました。只々感謝！

櫻井洋三

新年初の楽々亭、なんと、人間の起源とでも言うのでしょうか、とてつも無く大きな問題を籠谷さんが80歳になられても今なお不思議に思っているらしい事に感心しました。不思議に思つても、分からないままに生きて来て80歳近いもので。安堂先生も驚かれていらつしやる事が微笑ましく(自分の娘とほぼ同年代と分かりましたので)感じました。

これもご縁を頂いたのでしょうか。楽しかったです。

菅沼清子

今回の楽々亭は今までとまた違った会でした。

「なぜ生物は生まれ、死ぬのか？」籠谷さんが解けないでおられる問題を投げかけ答を求めら

れました。殿ご乱心！煙に巻かれた戸惑った雰囲気、安堂名奉行が一刀両断！名采配をふるって、籠谷さんと皆の者を自由にして下さいました。

誰もが一度は悩み脇に置いて生きてきた答えのない問題？私も「人は何のために生きるのか」問い続け、誰からも答えを得られず、灰色の青春時代を送ったことを思い出しました。籠谷さんのおかげで、頭が青春時代に戻りました。

そして今また悩みます。「ウイルスは無生物なのに、どこで生まれなぜ増え続けるのか」

光木和子

**楽々亭第8回 2月の予定**  
2月17日(水)  
西京区役所洛西支所会議室  
午前10時~12時  
時間が変わりました。  
1月に開催した場所です。  
表玄関から入って下さい。

### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都  
住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701  
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328  
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。